
薬

—健—

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

薬

【Nコード】

N7973C

【作者名】

一健一

【あらすじ】

私たちもきつと彼らに待たれているはずですよ

「おい、また一組リストラだってよ。」

「またか、お上の奴も容赦無いねえ」

「しっかし、見事なまでに来なくなったなあ、日に一人二人は当たり前だったのに」

「あれ？お前まだ知らないのか、」

「なにを？」

「なんでも、すごい薬が発明されらしいぞ」

「どんなのだよ」

「・・・って噂だぜ」

「お前それは無いだろ、あいつらがそんなもん作れるわけ無いだろ」

「いや、それが本当なんだよ、じゃなきゃこの状況の説明がつかないだろ」

「そりゃ、そうだけだよ」

「それにしても、せめて景色ぐらい何とかならないのか？こう真っ白だと気が狂いそうだぜ」

「ここに来たときに、この景色が和むって言ってた奴はだれだよ」

「そのときはそのときだろー」

「お前ここ一ヶ月で何人送っていった？」

「えっと、たしか八人だな」

「じゃあ、俺より一人多いか」

「次来たらお前が行けよ」

「ん、わかった。」

「おい、起きろ、リストが来たぞ」

「お、来たか、どれどれ」

「どうだ？」

「平々凡々な奴だよ、」

「なんでえ、悩む必要なしか」

「さっさと天国まで送ってこいよ」

「ああ、行ってくるよ」

そう言った青年の一人は、頭に黄色いわっかをつけると、背中に生えた純白の羽で、死人を迎えにいった。

「しかし、人間が不老不死の薬なんかを作れるとはおもってなかったぜ、おかげで商売あがったりだ」

「僕死んでしまったんですよね？天使さん」

「私は、あなたを天国へお送りし……………」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7973c/>

薬

2011年1月21日15時07分発行